

ひさしと安全性

安全と安心をお届けするために、妥協を許さない試験の繰り返し

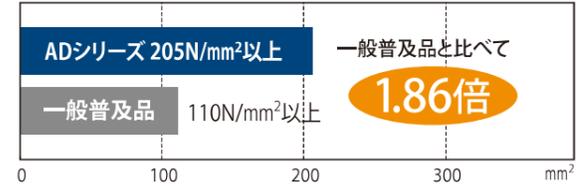
ひさし開発の姿勢が、44年の信頼と実績につながっているものと自負しております。しかも、無事故という「あたりまえ」の大切さを誇ることができるのです。

それがアルフィンの強度ひさしです



素材の違い

ADシリーズの本体パネルと吊元レールの押出形材には、A6005Cの質別T5を採用しています。ひさは人間の頭上につくものであり、もしひさが落下すると大惨事になりかねません。アルミ合金には多くの種類がありますが、コスト面より強度をまず確保することが大切と考えています。

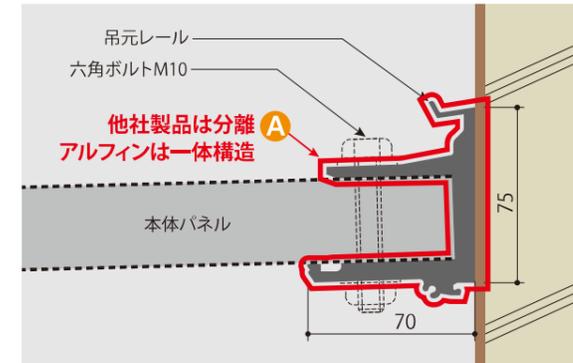


	JIS	質別	引張強さ (N/mm ²)	
			JIS値	JIS値
ADシリーズ	A6005C	T5	245以上	205以上
一般普及品	A6063S	T5	150以上	110以上

※参考：試験箇所厚さ6mm以下

構造の違い 特許取得済

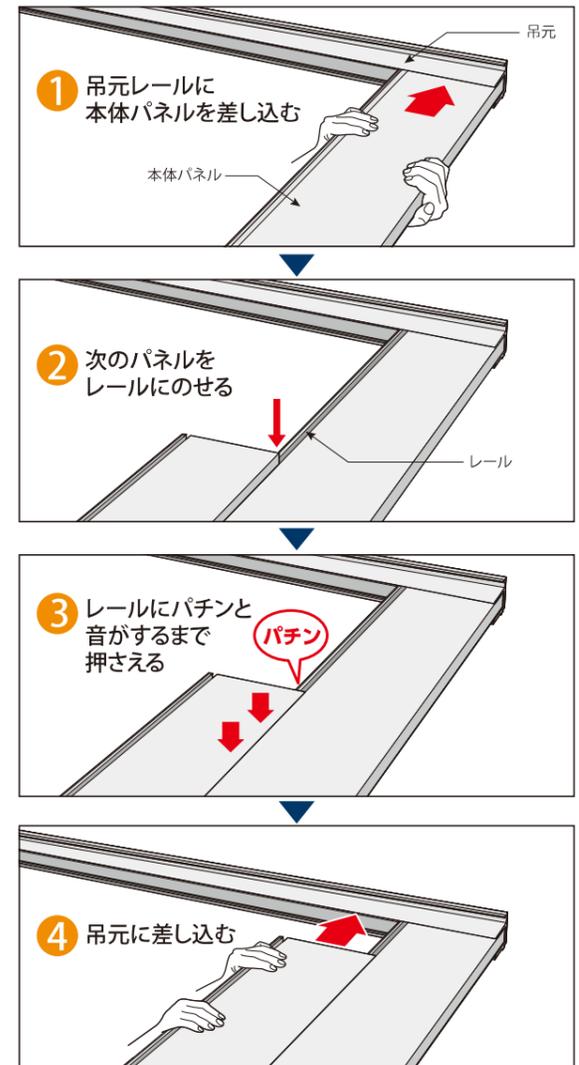
AD 2の吊元レールは、一体型構造設計となっています。他社で採用されている分離された形材Aで構成された製品では様々な条件により外れる可能性がある事を確認しています。



(例) 本体パネル1枚につき、更にフラットバーを2本差し込むことにより、更に強度をより強固なものにすることができます。

特許取得済

工法の違い



ADパネル 全長4000mmの風圧300kgf/m² 本体パネルにフラットバーを内蔵しています。

現場の立地条件は様々。アルフィンは44年の実績があるので、様々な条件においてもスピーディーにご提案させていただきます。

